

# 新潟映像祭

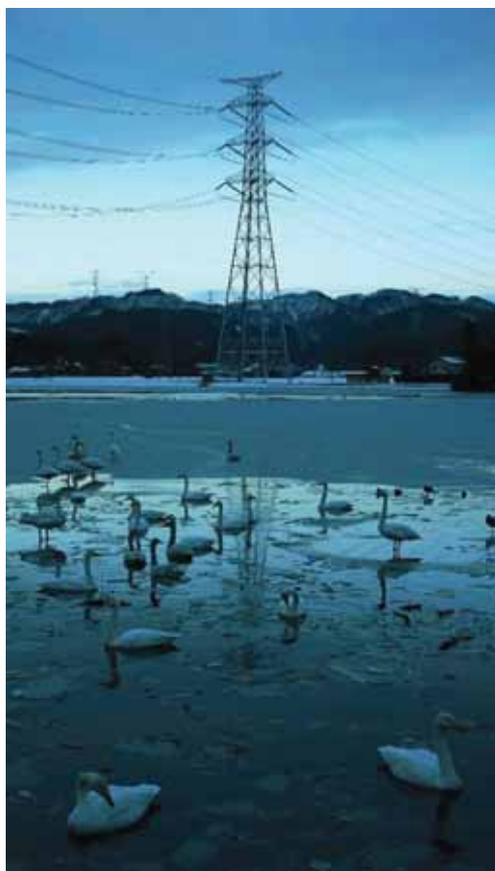
展覧会 2022年11月1日(火)～11月23日(水・祝)

新潟を拠点とする若手作家から国内外で活躍する気鋭の映像作家まで、

所蔵品をまじえ新潟を舞台とした作品を上映

ここに生きる者と訪れた者、内／外の視線がプリズムのように交錯する。

新潟とはどのような場所なのか、美術家たちが新たにひらく視界のもと、時間や空間を超える旅に出よう。



① 吉原悠博《培養都市 2018》2018年  
(オリジナル 2015年) 新潟市美術館蔵

美術家たちが捉えた新潟の映像を、当館所蔵作品をまじえて特集します。

この地で育った者ならではの眼差しと、別の土地からやってきた者が現地を歩いてはじめて見出した新鮮な光景とが交錯します。ここはどんな場所なのか—各室ごとにプリズムのように繰り広げられる多彩な映像表現は、見る者を時間や空間を超えた旅へと誘ってくれることでしょう。テクニカルディレクションには国内外の映像展示を手掛ける新発田市出身の岸本智也を迎えます。

あわせて、2023年に開催される第一回新潟国際アニメーション映画祭の協力により、短編アニメーションを上映します。

## 【出品予定作家】

青山真治 あおやましんじ	1964 福岡県—2022 東京都
岩井成昭 いわいしげあき	1962 東京都—
阪田清子 さかたきよこ	1972 新潟県上越市—
梨本諦鳴 なしもとたお	1967 新潟県燕市—
Noism Company Niigata	2004 新潟県新潟市にて設立
蓮輪康人 はすわやすと	1982 大阪府—
潘逸舟 はんいしゆ	1987 中国・上海—
藤井光 ふじいひかる	1976 東京都—
mikkyoz みつきょうず	2009 新潟県にて結成 (le 1979 新潟県新潟市— 遠藤龍 1983 新潟県新発田市—)
基村英行 もとむらひでゆき	1976 新潟県新潟市—
吉原悠博 よしはらゆきひろ	1960 新潟県新発田市—
ナウイン・ラワンチャイクン	1971 タイ・チェンマイ—

【テクニカルディレクション／機材協賛】 岸本智也(新潟県新発田市)

主催 新潟市美術館

協力 新潟国際アニメーション映画祭実

行委員会、新潟・市民映画館 シネ・ウイ

ンド、サニーレイン

## 【お問合せ】

新潟市美術館 (荒井、菅沼)

TEL: 025-223-1622

E-mail: museum@city.niigata.lg.jp

## みどころ1 こんなにあった！国内外で活躍するあの人が新潟を舞台に制作



② 参加作家：藤井光

TCAA2020-2022(東京コンテンポラリーアートアワード)を受賞した藤井光は、社会と歴史に関心を寄せ、地域固有の文化を綿密なリサーチを通して検証し、静かに問いかける作風で知られます。本展では新潟水俣病をテーマとした《わたちがこんな目にあって、あんたたちは得をした》を上映します。一方、自らの身体を軸として、土地と共同体や個人の関係性を問う潘逸舟は、真冬の新潟の雪原でパフォーマンスを行いました。大地の芸術祭等にも参加するナウイン・ラワンチャイクンは、新潟に通い、出会った人々の暮らしの中から新潟を浮かび上がらせます。



④ 参加作家：ナウイン・ラワンチャイクン



③ 参加作家：潘逸舟

## みどころ2 知っていますか？新潟で生まれ育った個性豊かな映像作家たち

音楽と映像をそれぞれ担当するユニット mikkyoz は新潟で定期的に発表活動を続けてきました。浜辺や街角など確かに見覚えのある新潟の風景を捉えながら、互いの音・映像に影響を受けあい、異界の映像を紡ぎ出します。東欧のアニメーションに影響を受けたという基村英行は独特の世界観を持ったクレイアートやイラストを操り、コマ録りによる、不可思議なアニメーションを得意とします。継続的に制作してきた作品をまとめてご紹介します。

## みどころ3 新潟市美術館コレクション&新潟市美術館ゆかりの映像も



⑤ 阪田清子《対岸について》2016年 新潟市美術館蔵

新潟市美術館の収蔵品にも映像作品が含まれています。第20回メディア芸術祭アート部門の優秀賞に輝いた吉原悠博の《培養都市 2018》、上越市高田の出身で現在は沖縄に暮らす阪田清子の《対岸について》。さらに、過去の企画展において、新潟で取材しながら制作された岩井成昭のインスタレーション《注釈と追記〈空き家について〉》は、3チャンネルの映像作品に生まれ変わっています。燕市出身の梨本諦鳴は、新型コロナウイルス感染拡大により休館を余儀なくされた美術館で、長沢明展を撮影しましたが、それは単なる記録を超える映像作品となりました。

## みどころ4 ハイクオリティのプロジェクションにも注目。演出するのも新潟県出身！

大スクリーンの上映を担当するのは、新発田市出身で、2002年よりプロジェクションディレクターとして全国のイベントや展覧会などで映像空間のセッティングを手掛けてきた岸本智也。映像作品をより一層美しく演出します。

## みどころ5 新潟発の映像ムーブメントのこれまでとこれから。

「にいがた映画塾」は新潟の自主制作映画・上映を応援する市民団体として今年で24周年を迎えます。その活動を貴重な資料を交えて紹介するコーナーや、来年に予定されている第一回新潟国際アニメーション映画祭の協力を得て、短編アニメーションの上映コーナーを設置。映像をめぐる新潟のこれまでとこれからを紹介します。

## 基本情報

展覧会名	「新潟映像祭」
会期	2022年11月1日(火)～11月23日(水・祝) 20日間
開館時間	午前9時30分～午後5時(券売は閉館30分前まで)
休館日	月曜日
会場	新潟市美術館
観覧料	一般500円(400円)、大学生・高校生400円(300円)、中学生以下無料 ※( )内は20名以上の団体料金、リピーター割引料金(同一展のみ対象)、 あっちも割引料金(2022年度以降の新津美術館の企画展観覧券提示で割引)
主催	新潟市美術館
協力	新潟国際アニメーション映画祭実行委員会、新潟・市民映画館 シネ・ウインド、サニーレイン
お問合せ先	新潟市美術館(荒井直美、菅沼楓) 〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9 TEL.025-223-1622/FAX.025-228-3051/E-MAIL museum@city.niigata.lg.jp <a href="http://www.ncam.jp">www.ncam.jp</a> <a href="http://www.ncam.jpwww.facebook.com/ncam.tsunagaru/">www.ncam.jpwww.facebook.com/ncam.tsunagaru/</a>

## 関連イベント

### 医学町画廊 studio イベント「映された新潟-『新潟映像祭』の作品から」

11月11日(金)18:30～19:30 医学町画廊 studio にて \*一部出品作家のゲスト出演を予定しています  
主催・お問合せ: 楓画廊(080-5445-3924) 定員: 12名 参加費: 500円



⑥ 生前の青山監督 撮影: 池田正之

### 追悼・青山真治監督

今年3月21日に57歳でこの世を去った青山真治監督。新潟にも縁の深かった監督は、「唯一の映像作品」として、新潟の誇る舞踊団 Noism の舞台を映像に収めています。美術館では《Noism1×Noism2 劇的舞踊『ホフマン物語』》を上映しますが、市内2か所で追悼上映が行われます。

10月23日(日)～30日(日) 《AA音楽批評家 間章》 ギャラリー蔵織

11月12日(土)～18日(金) 「アオヤマのアシ」 新潟・市民映画館 シネ・ウインド

本リリースに掲載の画像～は、本展をご紹介いただける場合にかぎり、すべてデータで提供可能です。掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、使用后、データは速やかに破棄してください。

【画像使用全般に関する注意とお願い】●展覧会名、会期・会場名のほか、**指定のクレジットを必ずご掲載ください**。  
●画像は全図でご使用ください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。●WEBにてご掲載の場合には、コピーガード(※右クリック不可)を施しダウンロード不可にしてください。●概要など確認のため、グラブリ・原稿の段階でお送りくださるようお願いいたします。●掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録DVDを2部ご送付願います。

# 新潟映像祭

## 取材・チケットプレゼント・記事掲載申込書（FAX 専用）

FAX 送信番号：025 - 228 - 3051 新潟市美術館宛

- ◆ 展覧会取材、記事掲載時の作品写真(画像データ)及び、読者プレゼント招待券を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAX でお申し込みください。
- ◆ 別の記事・番組への転用はできませんので、その際には改めてご申請をお願いいたします。また、掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、使用后、データは速やかに破棄してください。
- ◆ 展覧会名、会期・会場名のほか、**クレジット**を必ずご掲載ください。
- ◆ 画像は全図でご使用ください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・変更はできません。
- ◆ WEB にてご掲載の場合には**コピーガード**(※右クリック不可)を施し**ダウンロード不可**にしてください。
- ◆ 記事内容は必ず事前に確認させていただきますよう、お願いいたします。
- ◆ チケットプレゼントの提供は1媒体につき10組20名様を上限とし、本展をご紹介いただける場合に限りさせていただきます。
- ◆ 読者プレゼントの宛先は貴社とし、抽選、当選者への発送は貴社にてご手配ください。当館から当選者への発送はいたしません。
- ◆ 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録DVDを2部ご送付願います。

○をおつけください	取材希望・チケットプレゼント希望・記事掲載希望
貴社名	
ご担当者名	
ご連絡先	
ご住所 (チケットプレゼント送付先)	〒
メールアドレス(データ送付先)	
ご媒体名	
取材予定日	( 月 日 時頃)・取材予定なし
取材スタッフ	計 名(内カメラクルー 名)
掲載・放映予定日	月 日
チケットプレゼント希望	組 枚 ※1媒体につき10組20名様まで
通信欄 ※画像を希望する場合は、該当する画像の番号を記してください。	